

全国学力・学習状況調査について

泉佐野市立末広小学校

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成28年4月19日（火）

3. 調査の対象

小学校第6学年，全児童

実施児童数（ 84 人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答率の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、中・低位層が多い。
平均正答率（本校 64.4／泉佐野市 69.5／大阪府 71.3／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国と比べて上位層が少なく、低位層が多い。
平均正答率（本校 43.9／泉佐野市 52.4／大阪府 55.4／全国 57.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○目的や意図に応じて、情報を関係付ける力に課題がある。 2 話し合いの説明として適切なものを選択する。 (69.0/79.2)</p> <p>【書くこと】 ○目的や意図に応じて、書く事柄を整理する力に課題がある。 4 取材した理由として、適切なものを選択する。 (70.2/78.2)</p>	<p>【読むこと】 ○目的や意図に応じて、図と表を関連付けて読む力に課題がある。 5 案内図と表を関係付けて、希望に合うものを選択する。 (85.7/93.1)</p> <p>○人物像を複数の叙述を基に捉える力に課題がある。 6 人物像を説明するのに、根拠となる表現として適切なものを選択する。 (50.0/63.9)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○ローマ字を読んだり、書いたりする力に課題がある。 8-1 ローマ字を書く (47.6/53.2) 8-2 ローマ字を書く (41.7/41.8) 8-3 ローマ字を読む (47.6/50.7)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】 ○目的や意図に応じて、質問を整理したり、内容を考えたりする力に課題がある。 1-1 インタビューメモの作成の際の、工夫した点に当てはまらないものを選択する。 (39.3/51.8) 1-2 質問の意図として適切なものを選択する。 (36.9/51.1) 1-3 インタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く。 (31.0/50.4)</p> <p>【書くこと】 ○グラフや表を基に、分かったことや自分の考えを書く力に課題がある。 2-1 結果を基に書いた内容として適切なものを選択する。 (26.2/43.4)</p>	<p>2-1 活動の課題について図の結果を基に書く。 (35.7/51.4)</p> <p>2-2 課題に対する解決方法を表の結果を基に書く。 (52.4/64.2)</p> <p>○文章の内容を押さえ、自分の考えを書く力に課題がある。 3-3 紹介したい内容をまとめて書く。 (34.5/52.9)</p> <p>【読むこと】 ○目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する力に課題がある。 3-2 複数の資料の内容を関連付けてまとめたものとして適切なものを選択する。 (58.3/77.9)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	27.4	23.7		3.7
国語の勉強は大切だと思いますか	64.3	65.9		1.6
国語の授業の内容はよく分かりますか	25.0	36.3	○	11.3
読書は好きですか	46.4	49.3		2.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか	53.6	57.9		4.3
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	15.5	25.1	◇	9.6
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	21.4	20.8		0.6
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	28.6	31.9		3.3
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	32.1	38.3	◇	6.2
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか、どのように解答しましたか	54.8	75.1	○	20.3
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	54.8	52.6		2.2
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	51.2	36.2	○	15

○「国語の勉強は好きですか」という項目では、全国と比べ3.7ポイント上位にある。「国語の勉強は大切だと思いますか」や「読書は好きですか」という項目でも、全国と大きく差がないことから、国語に対する抵抗感は少ないように感じられる。しかし、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という項目では、全国との差が11.3ポイントあることから、児童の実態に応じた授業づくりをする必要がある。

○「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という項目では、全国と比べ、9.6ポイント低位にあり、「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」という項目では、6.2ポイント低位にある。目的や意図に応じて読み取ったり、読み取ったことをもとに自分の考えを表現したりする力に課題がある。

○「調査問題の解答時間は十分でしたか」という項目では、国語A、国語Bともに全国よりも上回っている。その一方で、「今回の問題について、解答を文章で書く問題がありましたか、どのように解答しますか」という項目では、選択肢2「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった」(35.7/20.5)や、選択肢3「書く問題は全くなかった」(8.3/2.4)の選択肢を選んだ児童が、全国を大きく上回っている。わからない問題や記述式の問題に対し、諦めてしまう傾向がある。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 65.2 / 泉佐野市 75.0 / 大阪府 76.9 / 全国 77.6）

「B区分問題」

- 平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 36.3 / 泉佐野市 44.0 / 大阪府 45.8 / 全国 47.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○不等号を理解することが概ねできている。 3（1） 二つの数の大小関係を表す不等号を書く。 (95.2/96.7)</p> <p>○除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことへの理解に課題がある。 1（2） $2.1 \div 0.7$ を除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。 (48.8/68.5)</p> <p>○小数の除法の計算をすることに課題がある。 2（3） $18 \div 0.9$ を計算する。 (59.5/77.7)</p>	<p>【量と測定】</p> <p>○単位量当たりの大きさの求め方の理解に課題がある。 4 8m^2 に14人座っているシートについて、m^2 当たりの人数を求める式を書く。 (57.1/72.0)</p> <p>【図形】</p> <p>○直方体における面と面との位置関係の理解に課題がある。 7 直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ。 (64.3/78.0)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる。 9（1） 前に10人、後ろに19人並んでいることを基に列に並んでいる全体の人数を求める式の答えを書く。 (61.9/80.2)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述することに課題がある。 3（2） 縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く。 (19.0/38.4)</p> <p>【量と測定】</p> <p>○単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することが概ねできている。 4（1） 学校ごとに1人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ。 (45.2/48.3)</p>	<p>【図形】</p> <p>○正方形に内接する円の半径についての理解が概ねできている。 3（3） 1辺が9cmの正方形に内接する円をかくため、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ。 (75.0/76.5)</p> <p>【数量関係】</p> <p>○示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することに課題がある。 5（1） 示された形をつくらなければならないことを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く。 (1.2/6.9)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか。	33.3	38.7	◇	5.4
算数の勉強は大切だと思いますか。	65.5	72.6	◇	7.1
算数の授業の内容はよく分かりますか。	40.5	46.7	◇	6.2
算数の授業で新しい問題に出会った時、それを解いてみたいと思いますか。	50.0	50.7		0.7
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。	39.3	44.8	◇	5.5
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	27.4	33.4	◇	6.0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	59.5	67.6	◇	8.1
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	40.5	47.8	◇	7.3
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。	47.6	55.8	◇	8.2
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。	58.3	72.0	○	13.7
調査問題の解答時間は十分でしたか。(算数A)	56.0	53.9		2.1
調査問題の解答時間は十分でしたか。(算数B)	38.1	29.2		8.9

- 「算数の勉強は好きですか。」という項目では、本校が昨年度の59.3ポイントから本年度は33.3ポイント、全国が昨年度の66.6ポイントから本年度は38.7ポイントに下がり、本校・全国ともに昨年度との差が約25ポイント広がっている。児童の算数の勉強に対する興味・関心が、低下傾向にあることが懸念される。
- 「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。」という項目では、最後まで書こうと努力したという回答が昨年度66.6ポイントから今年度は58.3ポイントと8.3ポイント下がり、全国との差も13.7ポイントある。既習の知識を使って諦めずに解決方法を考えるという自力解決の姿勢が弱く、分からなければ安易に諦めてしまうという傾向がうかがえる。
- 「調査問題の解答時間は十分でしたか。」という項目では、算数Aでは全国が53.9ポイントに対し本校は56.0と2.1ポイント上回り、算数Bでは全国が29.2ポイントに対し本校は38.1ポイントと8.9ポイント上回っているが、全国と比べると無回答率が全ての設問に対して高く、30ポイントも高い設問もあることから、意欲的に問題に取り組んだということではないことが分かる。基礎知識が身に付いていないため応用が効かないということもあるが、文章を読むことへの抵抗や集中力が続かずに途中で諦めてしまうという傾向がうかがえる。

平成28年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば当てはまる 3. どちらかといえば当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5ポイント以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに下線部に関しては10ポイント以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校 回答率 / 全国 回答率 >
【家庭生活の様子】	基本的な生活習慣は、多くの項目で全国を下回っており、同じ時間に寝られていない児童が特に多い。普段、読書をしていない児童は多い。また、地域の行事やボランティア活動への参加は、大きな差がある。	<input type="radio"/> 毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか <u><71.4/80.1></u> <input type="radio"/> 普段どのぐらいの時間読書を読みますか (全くしない) <38.1/20.6> <input type="radio"/> 今住んでいる地域の行事に参加していますか <u><14.3/67.9></u> <input type="radio"/> 新聞を読んでいますか (毎日) <2.4/8.9> (週1~3日) <9.5/15.1>
【家庭学習の様子】	テレビやゲーム、スマートフォンの時間が長いに対して、家庭学習の時間が短い。家での予習、復習、教科書を使っての学習もできていない。	<input type="radio"/> 普段どれくらいテレビ・ビデオを見ますか (3時間以上) <45.2/32.8> <input type="radio"/> 普段どれくらいゲームをしますか (3時間以上) <27.4/16.0> <input type="radio"/> 普段どれくらい学校以外で勉強しますか (1時間以下) <46.4/37.3> <input type="radio"/> 休みの日どれくらい勉強しますか (全くしない) <21.4/10.2> <input type="radio"/> 家で学校の授業の復習をしていますか <u><35.7/55.2></u> <input type="radio"/> 家で教科書を使いながら学習していますか <u><51.2/64.6></u>
【学校での学習の様子】	学校が楽しい児童が少ない。話し合い活動に対する意識は低い。先生が分かるまで教えてくれないと感じているのは指示・説明・発問の工夫が必要。学校のきまりを守れていない児童も多い。人が困っている時は進んで助けているかの項目で低いのも気になる。	<input type="radio"/> 学校に行くのは楽しいと思いますか <u><78.6/86.3></u> <input type="radio"/> 話し合って学級のきまりを決めていますか <u><67.8/81.8></u> <input type="radio"/> 先生は分かるまで教えてくれますか <u><66.6/84.8></u> <input type="radio"/> 学校のきまりを守っていますか <u><69.0/91.5></u> <input type="radio"/> 人が困っている時進んで助けていますか <u><76.2/84.6></u>

本校の取組み

◎これまでの取組み

本校では、平成26年から研究教科を算数とし、算数を中心に豊かな心を育む授業づくりを進めている。各学年で研究授業を実施し、より効果的な指導方法を話し合っている。授業は【めあて】【見通し】【まとめ】【ふりかえり】の流れで行い、問題解決的な学習を取り入れることで、意欲的に学習に取り組む姿勢を育てている。また、自分の考えを自信を持って表現できるように、発表の型（まず・つぎに・だから）を示し、一人ひとりが手元の発表カードを見て、それに沿って話ができるように取り組んでいる。

少人数担当を中心に、基礎基本の定着にも取り組んでいる。年3回「診断テスト」を実施し、子どもたちの苦手な項目を分析する。そして、第1限前の15分間の「かがやきタイム」でその弱点を中心にプリント学習を実施している。基礎的な内容を繰り返すことで、徐々に身に付いてきている。

また、3年生から6年生は、学級担任と少人数担当による学年を習熟度分割した授業を行い、児童一人ひとりにあった個別指導に力を入れている。

学習に対する姿勢にも課題があると考え、「学びをつくる5のとびら」を各学級に掲示し、定期的にチェックするなど、全学年が同じルールで学習に向き合えるようにしている。

家庭学習を支援するために、年度初めに「家庭学習のすすめ」を全児童に配布し、学期に一回、「家庭学習Week」を実施し、自主的に家庭学習に取り組む習慣の確立にも取り組んでいる。

◎これからの取組み

算数を研究教科として、重点的に取組みを進めているにもかかわらず、今年度の全国学力・学習状況調査の結果では、依然として全国平均との差があり、引き続き研究を深める必要がある。

授業改善については、算数の問題解決的な学習は、子どもたちの中にも意識付けられてきており、今後粘り強く進めていくことで、学力向上につなげていく。その成果を算数だけでなく、他教科にも広げていくことで、より効果が上がるのではないかと考える。

また、今年度から始めた「家庭学習のすすめ」もより力を入れて取り組んでいく。児童質問紙から、本校児童は、テレビやゲーム、スマートフォンの時間が長いのに対して、家庭学習の時間が短く、家での予習、復習、教科書を使っての学習もできていない傾向がうかがえる。学力の向上には家庭学習の充実が欠かせない。家庭でのテレビやゲームの時間、学習の時間を決め、それを実行できる強い意志を育てるような取組みを考えていきたい。そして、家庭で新聞や読書に親しむ習慣を付けさせることも、必要である。

授業改善を進めているものの、子どもたちの受け止め方や意識には課題が見られる。児童一人ひとりの到達度や現状をよりきめ細やかに把握し、個別の指導に力を入れ、習熟度別授業を工夫していきたい。

学習規律についても全クラスで同じ基準で守れるように取り組んでいるところであるが、「学校のきまりを守っていますか」の項目が大変低い。どうしたら守れるか、本校に必要なきまりは何か、といったところからしっかり話し合い、効果的な提示を学校全体で行っていく。

自尊感情に関する質問では、昨年度よりも改善が見られる。学校全体で課題のある児童に関わり、児童の良い所を意識して見つけ、褒める機会を増やしている効果であると思う。今後も自尊感情が高まるような取組みを進めていきたい。